

歌壇

大下 一真 選

特選

検温の習慣おぼえた子らがみなみずから額の髪の毛あげる

春日 金子 真由美

三十年建て替える前の家に居る夢から醒めて米寿迎えぬ

向丘 高野 伸子

何もかも春だコロナだいうけれど我は倦まずにひとり草抜く

音羽 黒坂 進

入選

鶯の声聞きたさに早く起き欠かさず向かう権現の坂

千駄木 上杉 紀世子

昼の月そ知らぬごとくしらじらと給水塔のうえにかかれり

本駒込 唐木 よし子

寝息たて寝そべる犬のかたわらに我もいつしか春野をかける

水道 菅井 茂子

晩春の夕やけ雲のあかね色しづまりし校庭の彼方にかすむ

春日 高木 悦子

子供には善と悪との区別なく好きと嫌いの二つあるのみ

関口 中川 良二

目も口も使う相手は妻にだけですます世間狭くなりつつ

白山 長濱 直

人の死が数として報じらるる日々路地奥に死すハクビシン一匹

千石 菊地 正矩

俳壇

松澤 雅世 選

特選

新緑に青銅の鳩飛ばんとす

本郷 町田 菊男

社まで使ひとなりて夏の蝶

千駄木 前崎 正三

たんぽぽの絮とび尽し尼僧なる

向丘 丸岡 正児

入選

持ち帰り出来ませす桜しべ降る夜

小石川 秋庭 菊枝

幽かな音桜蕊降る夜明け前

小日向 内野 仙也

夕桜濃さを増しつつ風生忌

千石 菊地 正矩

遠桜百合子の日記読み終える

音羽 黒坂 進

雪柳こぼれまじとてこぼれけり

西片 中島 多津子

風の香にひらく仕草や燕子花

小石川 福富 貞子

鳥曇葉間にきえるブーメラン

本駒込 横塚 敏子